

地元との連携によって復元される矢切斜面林

諸富 文彰

国土交通省関東地方整備局首都国道事務所工務課（〒271-0072 千葉県松戸市竹ヶ花86）

首都国道事務所が進めている東京外かく環状道路の当該区間の施工にあたっては、地域の象徴である矢切斜面林との保全と共存を目指している。この区間ではトンネル構築後、矢切斜面林をトンネル上部に復元する計画である。復元にあたっては、地域の人々に親しまれる緑の復元を目指すため意見交換の場を持ち、具体的な計画を策定した。その結果、地域の人々とのコミュニケーションの場が生まれ、矢切斜面の復元がスムーズに進行した取り組み事例として紹介するものである。

キーワード 地域の人々に親しまれる緑、矢切斜面林復元、意見交換、コミュニケーション

1. 首都国道事務所の事業について

東京外かく環状道路、通称「外環」は都心から半径15 km圏を環状方向に結ぶ延長約85 kmの道路で、放射状に伸びる幹線道路を相互に連絡して都心に集中する交通を分散導入するとともに通過交通をバイパスさせる役割を果たす道路である。（図-1）

外環道のうち首都国道事務所では千葉県区間の約12.1 kmで用地買収及び工事を進めており、平成27年度全線開通を目指している。

2. 矢切斜面林とは

矢切斜面林は千葉県北西部にあたる松戸市の上矢切、中矢切、下矢切、栗山地区の4地区に存在している原生林である。延長は江戸川に沿うように南北におよそ2 kmにわたり、幅30 m、高低差20 mの斜面にクヌギやコナラといった『どんぐりの木』を始めとする400種類を超える植物が確認されている。（図-2）

この樹林帯は地域の人々によって管理されてきたものであり、地域の環境や景観を象徴するものとして日常的に親しまれてきた。また、自然環境保全の観点から、松戸市は矢切斜面林は貴重な樹林として重要視しており、平成20年4月16日までに栗山地区の約2ヘクタールを先行的に「特別緑地保全地区」に指定している。今回指定されていない、残りの地区においても「特別緑地保全地区」の指定を目指している。



図-1 事業概要図



図-2 航空写真

3. 現状と課題

(1) 現状

平成12年度にトンネル工事に先立ち、影響を受ける樹木の保護を目的に移植が行われ、工事完了後にトンネル上部に復元する計画が立てられていた。(図-3)

しかし、復元計画の詳細は決定しておらず、具体的な植栽計画や植樹方針がなかった。その様な状況の中、平成19年度末一部先行開通に向けトンネル上部の樹林復元を早急に進める必要があった。

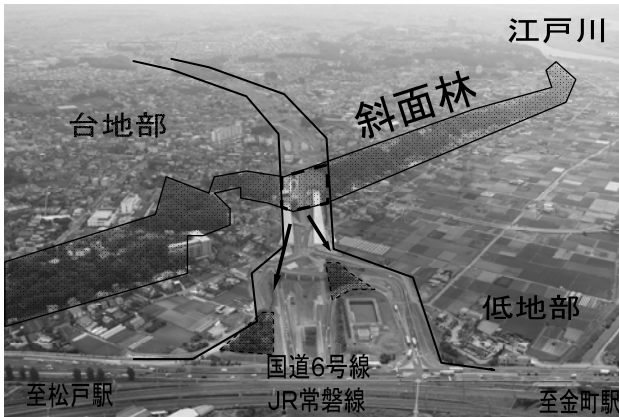


図-3 国道6号上空より斜面林を望む

(2) 課題

課題として下記の3点が挙げられる。

- 1) 地域と連携した復元計画の策定
- 2) 外部見識者による助言
- 3) 松戸市の緑化計画との調整及び整合

矢切斜面林は古くから地域の人々に親しみをもたれている樹林であることから、地域の人々と一緒になって検討することが重要である。復元にあたっては、極力変化を抑えるために地域に即した樹木の選定が必要であり、外部見識者の意見を取り入れる必要があると判断した。さらに、矢切斜面に隣接している松戸市の計画があり、整合をはかるため調整が必要であった。

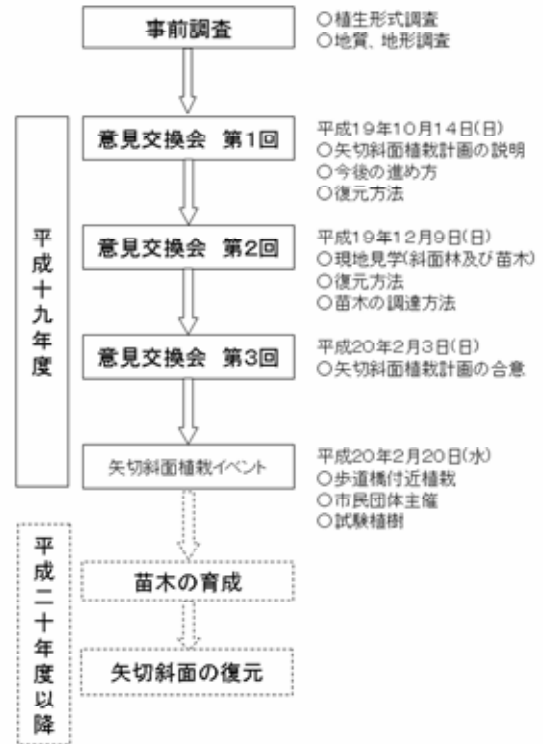
4. 課題に対する取り組み

(1) 矢切斜面林意見交換会の実施

地域と連携した復元計画の策定のため『矢切斜面林復元意見交換会』を立ち上げ地域の人々が自由に意見要望がだせる場を設けた。

意見交換会は3回に分けて、各交換会毎にテーマを定めて開催した。(表-1)

表-1 矢切斜面林意見交換会フロー



1) 現地踏査

復元計画の基礎資料にするため、意見交換会前に矢切斜面林の植生形式、地質及び地形など現地踏査を実施した。(写真-1)

現地踏査の結果、矢切斜面林は全体的に水が滞留しやすい土質であった。また、斜面林は50%を超える急勾配であり、表層に落ち葉などが堆積して崩落しやすい状況にあった。

そのため復元計画の立案にあたっては、崩落防止の対策や、排水機能を有した良好な植生基盤を整備することが重要である。



写真-1 現地踏査の様子

2) 体制

矢切斜面林は古くからの地域の景観と環境の象徴であり、地域の人々に親しまれる緑を目指すものとして、参加者主体で進めていくこととした。参加者については、堅苦しい雰囲気なくすため、誰でも自由に参加できるようにした。また、緑化アドバイザーに助言してもらうことにより、専門的な知識のない方でも意見が述べられるような会議環境を保たれるよう努めた。(写真-2)

この他にもFAX、ホームページ等で随時意見を受け付け、参加出来なかった人でも意見が出せるように工夫し、多くの人から意見を頂いた。



写真-2 意見交換会の様子

3) 現地視察

意見交換会で行った現地視察では、矢切斜面林の状況を参加者と一緒に歩きながら確認した。(写真-3)

矢切斜面林は地区ごとに変化の見られる樹林帯であるため、現地視察の時に変化が確認できるルートを選定した。また、外環の整備予定や工事の進捗状況を説明することで復元計画と事業と関係を説明した。現地視察により復元計画について参加者自らが個々にイメージを持つことが出来たのではないかと考えられる。現地視察はコミュニケーションの場にもなり地域の方々と交流する貴重な機会を演出できた。



写真-3 現地視察の様子

4) 矢切斜面林復元計画の合意

第1回、第2回意見交換会でまとめた意見、要望を第3回時に復元イメージ図として提示した。(図-4)

具体的なイメージ図を提示したことにより、参加者の共通認識が深められ、議論がより活発となったことから円滑に合意形成を図ることができた。さらに参加者より今後も積極的に復元計画に参加していきたいとの声もあがり、復元完了までの協力体制の目処が立った。

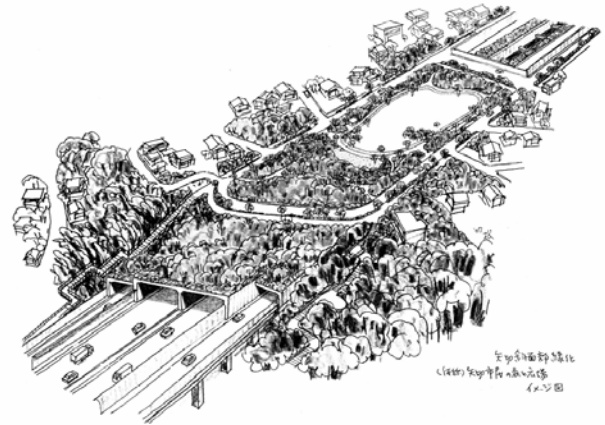


図-4 復元イメージ図

5) かわら版の作成・配布

復元内容の策定とともにその情報を地域の人々及び意見交換会に参加出来ない人への周知するため、意見交換会の内容については『かわら版』にまとめ、地域の人々に配布した。(図-5)

かわら版には次回の意見交換会の予定なども記載することにより積極的に参加者を募った。



図-5 かわら版

(2) 松戸市の計画との整合

松戸市は、「松戸市減CO2大作戦」の一環として、50万本植樹計画を立てており、その一つとして外環の矢切トンネル上部を活用しての『(仮称)矢切市民の森と広場』計画を進めていた。(図-6)

『(仮称)矢切市民の森と広場』を計画している区域は、矢切斜面復元箇所と連続しており、綿密な調整が必要が生じた。

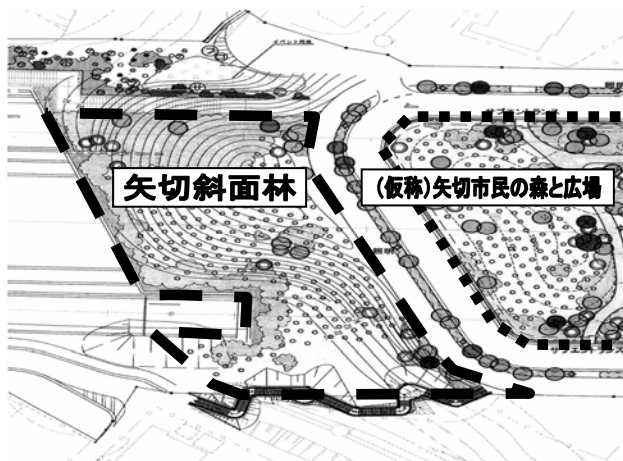


図-6 矢切斜面～蓋掛け部平面図

1) 植栽レイアウトの作成

松戸市の計画と連携をとるため、植栽レイアウト図を作成し、これを元に計画を進める事で共通認識をもちながら計画を進めた。(図-7)

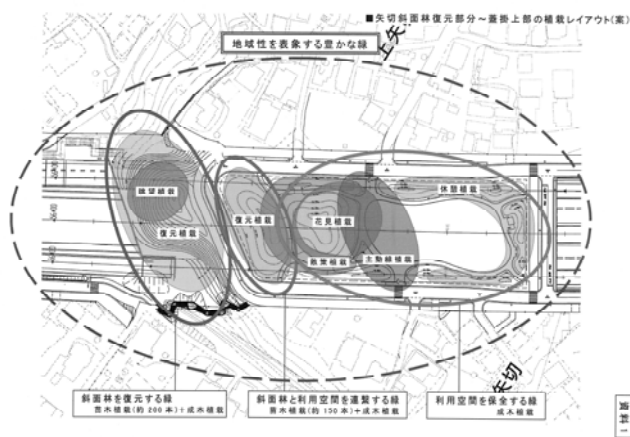


図-7 植栽レイアウト図

2) 作業部会での調整

『(仮称)矢切市民の森と広場』でも地域の人々から意見や要望等をだしてもらうために作業部会を立ち上げて検討していた。当事務所も作業部会に毎回参加をし、計画の調整を行った。

また、作業部会で議論に至らなかった詳細部分については松戸市と別途打合せを行い調整した。

5. 取り組みの評価と今後の課題

(1) 評価

意見交換会を進めていった中で現地視察を取り入れたのは効果的であったと考えられる。今回の対象地である斜面林は高低差がある急斜面であり、平面図等ではわかりにくい箇所も視察によりイメージしてもらうことができた。また、そのイメージを具体化することで更に完成時のイメージを固める事ができ意見交換会で活発な議論が交わされ、進行が捗った。また、松戸市と共同して計画を進めていったため地域との連携がとりやすく、非常に親近感のある取り組みにすることが出来たと考えられる。

(2) 今後の課題

今回の取り組みのなかでは地域の人々とうまく連携を図りながら進めていくことが出来た。その一方で今後の課題も浮き上がってきた。

課題については、下記の3つが挙げられる。

1. 維持管理体制のあり方
2. 幅広い年齢層が参加できる体制づくり
3. 地域との良好な関係の継続

樹木は成木になるまで20～30年かかるといわれており、成木に成長するまでの育成管理が必要となる。また、意見交換会への参加者の若年層の参加の割合が低く、先の管理の観点からも必要不可欠であるため、積極的に機会をつくっていきたい。そのためにも地域住民との良好な関係の継続的な構築が重要である。

6. 最後に

矢切斜面林の復元については平成19年度に一部植樹が完了したが、復元実施に向けての取り組みは継続している。現在は『(仮称)矢切斜面林復元を進める市民の会』の立ち上げを準備している。これは地域の活動としての集まりをつくり、主にどんぐり拾いから植林までの作業を中心に活動していき矢切斜面の復元を行う組織を目指している。

また、近隣小学校のPTAより総合学習の一環で子供たちにも矢切斜面林の植樹に関わらせて欲しいと要望があったことから、児童によるどんぐりからの苗木育成などを計画している。

首都国道事務所は、今後も地域との密なる連携の上で、矢切斜面林の復元に助力する所存である。

最後に、10、20年後に子供たちが矢切斜面林は私達が植えた木だと誇れる林になっていることを願い、結びとさせていただきます。